

塾長からのメッセージ

柴山 登光

J F C主催のメンズものづくり塾は2007年4月に発足し、毎年、春（前期）と秋（後期）の2回開講しています。受講者は東京及び関東近県のほか、北は青森、秋田、岩手、山形、福島などから、中・西日本からは名古屋、岐阜、大阪、広島、岡山など、さらに九州の佐賀、長崎、鹿児島、沖縄など全国から参加されています。

メンズを学ぶところがない

メンズものづくり塾に関心を持っていただいているのには理由があります。メンズの学校が無くなって久しく、メンズを学べるところがほとんどないのが現状です。また、学んでいないから就職もメンズという形では入れず、レディースの方から引き抜いているような状況です。人材は構造的に枯渇しています。

メンズにはある程度ドレスコードがあり、形が変わらない分、よりバランスや着やすさなどを追求します。レディースは人台である程度形が整えばOKの世界かもしれませんが、メンズはそうはいきません。メンズのドレスコードは時代とともに、少し変化しますが、何を守らなければいけないのか、というルーツから発している部分があります。それを知り、理解しないと、崩したりしたとき、おかしくなってしまいます。メンズは理論づけされており、なるほど、と思わせるものがあります。学校でかじっただけではすぐに使い物にならず、経験値が要るし、時間もかかります。経験者は、それだけ線に対する意味合い、線に対する造詣が深いのです。メンズ塾に来ている人は、そういうものを作りたい、知りたいというのが動機だと思います。

経験者も確信を得るために

本塾には経験者も参加しています。「まだ自信が持てないので、もう一度、基本から学んでみたい」という動機の人、また、「わかっている、あるいはわかっているつもりだが、なかなか確信が持てず、確信を得たい」という動機の人もあります。パターンで6回、縫製で8回くらいの授業で、全てわかるということではないと思いますが、特に確信を得たい人にとっては、折に触れ話すことから、何かヒントが得られるはずです。

線を通して服の見方がわかる、ということも参加しての実感のようです。最近、アパレルの関連業種の方も服を知りたいとの思いから本塾に参加されています。

デジタルとアナログの融合

教える方も時代に合わせて進化していかななくてはなりません。CADを使うのは当たり前の時代。このため全部上がり製図にして、CADでもすぐに使えるように教えています。それが即戦力のための実践教育です。現実にはデジタル

の世界だから、アナログを知って、デジタルを使いこなす人が、生きたデジタル世界に入れるのです。アナログだけでは、昔のやり方しか教えられないし、デジタルで受け止めた方は、どうやって生かそうか悩みます。本塾では、デジタルに使えるようにかみ砕いて、翻訳してエッセンスを教えています。

上がり製図と裁ち切り

メンズの製図は、裁ち切りと上がりが混在しています。メンズはそれが普通ですが、レディースの人には、一番わかりにくいところでしょう。裁ち切りというのは、工場で裁断する線。上がりというのは、出来上がりの線、つまりミシンの縫い目の線です。それに縫い代を付けるわけですが、CADだと簡単に縫い代をつけられます。基本製図があって、前身もいろんな襟があります。ボタンの位置によっても違いますが、そのバリエーションを関連づけて、いちばんバランスの良い襟を設計するにはどうしたらいいかということを教えます。関連づけて教えることで、そんなに間違ったことはしないようになります。もう一つは、補正です。習った範囲の中から自分の服をシーチングで作ってもらい、試着してシワや窮屈な部分を平面で修正します。企業では、社内モデルに着せてサンプルチェックをしますが、その修正能力が養われます。

メンズとレディース

私はセコリジャパンスクールでレディースを教えています。セコリにもセコリのこだわりがいくつかあります。平面製図ですが上がりで教えており、百パーセントとは思わないにしても、メンズから出発した学校と思える部分があり、共通する部分は大事にしています。日本モデリスト協会では、レディースとメンズの垣根を外すというのが、一つのテーマです。まさしく、そういう形になっています。今までは壁がありましたが、両方知ることによって、お互いに良いところを取り入れるべきだと思っています。

2011年3月に初版を刊行し、現在第3刷になっている拙著『服づくり大全』（正篇・続篇）はアイテムを広げカジュアル以外は網羅した内容になっており、メンズ塾のテキストにも使っています。この本でも上がり製図にし、整合性を取り入れながら書いたのでCADに取り込んで使うこともできます。また、補足説明を兼ねてコラムを随所に入れ、豆知識も得られるようにしました。本でふれた内容をメンズものづくり塾で実際に手を動かして理解を深め、再び本に戻って次の疑問点や課題に気づき挑戦する。この繰り返しが皆さんの技術力を確実に引き上げます。

メンズものづくり塾では、パターンをわたくし、柴山登光が担当し、そのパターンをもとに縫製を大ベテランの西岡毅先生が実践指導します。こうした2人のコンビは「現在、考えられる最高の組み合わせ」との有難い評価を頂いています。西岡先生ともども皆さんと一緒に学んでいきたいと願っています。

(2023・9・1)